

## 1. 要 旨

この調査では、サロベツ原野を中心とする北海道サロベツ地区（約 477k m<sup>2</sup>）を対象として、湖沼調査、土地利用調査、地形分類調査を実施し以下の調査結果を得ました。

### （1）湖沼調査

湖沼調査では、サロベツ原野の中に位置するペンケ沼・パンケ沼の地形・地質・水中植物を調査した結果、

- 1)ペンケ沼は平均水深0.2m、パンケ沼は平均水深1.2mと共に浅い湖沼であること。
- 2)両湖沼の最大水深部は、いずれも流出河口部の濤（みお）の部分にあり、ペンケ沼は2.7m、パンケ沼は2.4mであること。
- 3)底質は両湖沼とも全体的に泥となっており、ペンケ沼では北側と西側の湖岸沿い、パンケ沼では流出河口付近が、砂や泥混じり砂、砂混じり泥となっていること。
- 4)水中植物は、ペンケ沼では全体に沈水植物が密生していて、沼の北側、西側、南側には湖岸から挺水植物が分布していること。パンケ沼では流出河口付近に、一部挺水植物が分布していることを明らかにしました。

### （2）土地利用調査

土地利用調査では、1956（昭和31）年前後、1978（昭和53）年前後、1998（平成10）年前後の3時期の地形図からサロベツ地区の土地利用とその変化を調査した結果、

- 1)調査地域においては、各年代で減少してきてはいるものの、森林が全体に占める割合が一番多いこと。
- 2)湿地面積は1956年と比較して1978年には約2割、1998年には約7割5分が消滅していること。このうち畑地化によるものが約3割、荒地化によるものが約2割5分を占めること。
- 3)土地利用項目間の変化の分析により、1956年から1978年にかけて年平均2.6km<sup>2</sup>の割合で森林から畑地等へ、また年平均1.61km<sup>2</sup>の割合で荒地等から畑地等への土地利用の変化が起きており、この傾向は1978年から1998年にかけても同様に継続されていることを明らかにしました。

### （3）地形分類調査

地形分類調査では、サロベツ地区の地形を山地・丘陵、台地・段丘、低地、湖沼の4つに類型化し、サロベツ地区のそれぞれの地形の特徴を把握して地形分類図にとりまとめました。その結果、

- 1)サロベツ地区の西側は海岸線に沿って砂州・砂丘が連なり、北側及び東側には山地や台地が分布し、南側には天塩川が流れ、その中央に湿原（泥炭地）のサロベツ原野が形成されていること。
- 2)地形と土地利用の関係をみると、低地の微高地である緩扇状地上に豊富市街地が立地しており、段丘面は主に牧草地として、また湿原内の後背低地は排水路が整備され牧草地として利用されていることを明らかにしました。